

重点プロジェクト計画概要一覧表（東北ブロック）（平成30年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
青森県	1	「青天の霹靂」の良食味・高品質米の生産拡大	H28 ～ 30	水稻	○地域の現状と課題 ・平成27年4月に奨励品種として認定された「青天の霹靂」は、食味・品質の評価が高く、特Aランク米として評価された。青森県産米の評価向上を牽引する品種としてブランド米に育て上げるため、生産体制の強化が必要となっている。 ○目標を達成するための活動方法 ・生産者全員が玄米タンパク質含有率の出荷基準（6.4%以下）をクリアし、食味の良い「青天の霹靂」を消費者に届ける生産体制を強化する。 ・県民局（中南、西北、東青）は、関係機関、集荷団体、試験研究機関との連携及び「青天の霹靂」技術普及拠点ほを活用した技術指導や情報提供などにより、良食味高品質米生産に取り組む。 ・農業革新支援専門員は、農産園芸課と連携して、県民局単位で開催される現地研修会や検討会などに出席し指導助言する。	○関係機関との役割分担 ・市町村、農協は生産プロジェクトチームで活動計画や活動実績について検討するとともに、現地研修や成績検討会の開催等に協力する。 ・青森県産業技術センターは、技術等の課題について改善策を検討する。	（県）「青天の霹靂」がけん引するあおもり米レベルアップ事業
青森県	2	ぶどう「シャインマスカット」の導入推進と栽培技術の確立・普及	H29 ～ 31	園芸（果樹）	○地域の現状と課題 ・中南及び西北地域はスチューベン主体の産地であるが、近年、市場評価が高く、高収益性が期待されるシャインマスカットに対して、生産者の関心が高まっており、徐々に導入され産地化の機運が高まっている。しかし、ぶどう生産者の多くは、大粒系品種であるシャインマスカットに対応した栽培技術を習得していない。また、シャインマスカットは他県でも栽培面積が急増しているため、産地間競争を見据えた産地育成が必要である。 ・このため、生産量確保と栽培技術の早期普及、貯蔵等による有利な販売方法の確立が課題となっている。 ○目標を達成するための活動方法 ・指導対象は、中南地域では弘前地区農協ぶどう連絡協議会、西北地域ではシャインマスカット作付者とする。 ・県民局（中南、西北）は、シャインマスカットの導入推進と技術普及のため、講習会開催や実証ほ設置、個別巡回指導等を行う。また、長期貯蔵技術について、本県での実用性を検討する。 ・農業革新支援専門員は、県民局単位で開催される現地調査、検討会などに出席し、指導助言や情報提供を行う。	○関係機関との役割分担 ・農協、産地市場と連携し、講習会開催や現地巡回指導を行い、導入推進と技術普及を行う。 ・市町村や産地市場と連携し、新植や改植の支援を行う。 ・青森県産業技術センターりんご研究所と連携し、高品質や省力化をテーマとした試験課題を設定し、技術の確立を目指す。	（県）特産果樹産地育成・ブランド確立事業（県りんご果樹課） （県）西北の「シャインマスカット」産地ステップアップ事業（県民局重点事業）
青森県	3	ながいもの産地力強化に向けた取組	H30 ～ 33	園芸（野菜）	○地域の現状と課題 ・本県のながいものは、国内出荷量の4割を占めており、本県野菜の重要な品目となっている。一方で、単収・品質は横ばい状態にあり、今後もながいも産地を強化していくためには、優良種苗の安定供給や既存技術の再構築による単収・品質の向上のほか、担い手の育成・確保が必要となっている。 ○目標を達成するための活動方法 ・県（担当課：農産園芸課）がH28年度に策定した「あおもりながいも産地力強化戦略」に基づき、県民局（三八、上北）は、実証ほの設置、現地講習会、現地検討会、普及推進会議の開催を行う。 ・農業革新支援専門員は、普及指導員・営農指導員を対象とした県域での研修会を開催するとともに、地域の普及推進会議に出席し、指導助言を行う。併せて、同戦略に基づく試験研究の実施に関する助言を行う。	○関係機関との役割分担 ・全農、農協は普及推進会議で活動計画や活動実績について検討するとともに、講習会の開催等に協力する。 ・青森県産業技術センターは、技術の改良等について検討するとともに、普及指導員の研修に協力する。	（県）あおもりながいも産地改革推進事業
岩手県	1	オリジナル水稻新品種の普及拡大	H27 ～ 30	作物	1 現状と背景 昨今の米価下落により米の収益性が低下しているほか、ブランド米による産地間競争も激化しているため、米の再生産が困難な状況となっている。このような中、県オリジナルの新品種が育成されたことから、速やかに現地への普及定着を図るとともに、ブランド化により県産米全体の評価を向上させていく必要がある。 2 取組内容 (1) 新品種の良食味・高品質米栽培技術の確立 ア 安定栽培適地の把握と作付誘導 イ 良食味・高品質米の安定栽培技術指導 ウ 研究会活動を通じた安定栽培技術向上 (2) 新品種のPR等による知名度の向上 ア 生産者への新品種のPR イ 消費者への新品種PRイベント支援	展示圃農家、研究会（生産者）、普及センター、J A、J A全農、農業研究センター、県庁所管課	
岩手県	2	葉菜類の産地力強化	H27 ～ 30	野菜	1 現状と背景 主要葉菜類の作型分化等が不十分で生産が不安定かつ生産者が減少しているため、出荷量の落ち込みにつながっており、特にも、ほうれんそうで減少傾向となっている。こうしたことから、主要葉菜類の安定生産技術の確立と産地への導入により、産地力の強化につなげる必要がある。 2 取組内容 (1) 新たな技術の確立 ア 耕種の防除技術の確立 イ 作型に適合した技術の検討 (2) 省力・低コスト技術の確立 ア 生食用露地ほうれんそう栽培技術 イ 機械導入等による省力化 ウ 低コスト施肥技術 (3) 高位安定生産技術の確立 (4) 技術の効果的な普及	実証圃農家、普及センター、農業研究センター、J A全農	

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
岩手県	3	省力管理技術の導入による和牛子牛生産の拡大	H27 ～ 30	畜産	1 現状と背景 和牛子牛市場への上場頭数が年々減少していることから、規模拡大を支えるための省力管理技術の確立や分娩間隔の短縮による効率的な子牛生産をもって、規模拡大農家の育成につなげる必要がある。 2 取組内容 (1) 和牛子牛生産の拡大と肉牛農家の生産性向上 ア 周年屋外飼養による飼養頭数の拡大 イ 繁殖・育成の飼養管理技術向上 ウ I T機器活用による繁殖成績向上	モデル農家、新規実施農家、肉用牛サポートチーム (普及センター、県振興局、県庁所管課、家畜保健衛生所、畜産研究所、共済組合)	
岩手県	4	企業的経営体育成に向けた支援手法の確立と改善	H28 ～ 30	経営	1 現状と背景 農業の担い手が高齢化等で減少傾向にあるほか、新規就農者や農業生産法人等の自律的な経営管理も遅れている状況となっている。こうしたことから、特に、企業的経営を志向する経営体が自立的に経営改善を行える支援方法を確立のうえ、各地域で実践していく必要がある。 2 取組内容 (1) 支援手法の確立と推進 ア 経営改善計画シートの活用促進 イ いわて青年農業者企業家塾の開催 ウ PDCAシートの活用推進 エ 新たな支援ツールの開発 (2) 支援担当者の支援能力向上 ア 新規就農者・6次産業化支援担当者の支援能力向上 イ 集落営農法人化支援担当者の支援能力向上 ウ 開発されたツールの利用促進	農業改良普及センター、県庁所管課、工業技術センター、6次産業化支援センター、JA中央会	
宮城県	1	スマート農業実践による土地利用型経営体のトップモデルの育成	H30 ～ 32	稲作 普通畑作物	○地域の現状と課題 ・東日本大震災からの復興の過程において農地集積が加速し、100ha規模の大規模土地利用型法人が増加しているが、こうした経営体においては、多くのほ場を管理するようになり、ほ場毎のバラツキにより生産性が不安定であったり、計画的な作業管理が困難となっている。また、雇用する若い社員は、農業に関する知識や経験が少ない者が多く、技術力が不足している。 ○目標を達成するための活動方法 ・モデル経営体を設置し、近年、実用化が進むICTやIoT、ロボット技術等の革新的技術の導入を支援しながら、将来大規模土地利用型経営体が目指すべきスマート農業を実践するトップモデルを育成する。また、スマート農業推進に向けた情報共有の機会創出や、企業が持つICT等を活用した新たなマネージメント手法のノウハウを、農業現場で実践できる普及指導員を育成する。	○関係機関との役割分担 ・試験研究機関及び農業資機材メーカーの協力を得ながらスマート農業の現地実証を行う。 ・JAや資機材メーカー等と連携しながら、情報共有のためのネットワーク構築し、現地検討会等を開催する。	(県)スマート農業実証モデル推進事業
宮城県	2	企業的経営を目指す農業法人の経営体質強化	H30 ～ 32	経営 普及指導活動	○地域の現状と課題 ・農業法人の設立や経営の大規模化が進んでいるが、個別経営から組織経営への転換が進まない法人が多い。また、事業継承の時期を迎えている法人は多いが、対策は進んでいない。 ・普及に対する経営指導ニーズは高まっているが、普及指導員も知識や経験が少なく、経営指導の資質向上が必要である。 ○目標を達成するための活動方法 ・専門的な知見を持ったメンバーにより集中支援(ハンズオン支援)を行い、経営体質の強化や継続可能な体制の構築を図る。 ・経営改善事例や、円滑な事業継承に向けた取り組み事例を蓄積し、本県農業法人への経営支援に役立つ形に整理する。 ・財務諸表診断・農業経営・労働安全の各チェックシートを現場で活用・検証する。	○関係機関との役割分担 ・農業法人支援については、民間企業に委託し、派遣される民間専門家と連携して支援を行う。	(県)農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業
秋田県	1	地域農業の担い手となる新たな農業法人の育成	H30 ～ 33	経営(担い手)	既存法人の役員等の高齢化・後継者不足が進んでいることから、複数の法人による将来を見据えた協議、マッチングにより新たな法人へリバイスする。 1 農業法人の経営力強化支援と法人化支援 ①大規模経営体向け経営研修会の開催 2 農業法人の経営継承支援 ①意識醸成と計画策定支援	鹿角市及び小坂町法人化、機械化導入等各種事業支援研修会補助	国：産地パワーアップ事業 県：園芸メガ団地導入支援事業、新時代を勝ち抜く農業夢プラン応援事業、地域施策推進事業
秋田県	2	園芸メガ団地を核としたにんにく産地化への支援	H30 ～ 33	野菜	園芸メガ団地を核とし、近隣法人や個人生産者を巻き込んだ一大産地を築く 1 栽培面積の拡大 ①地域版栽培層の作成 ②優良系統のウィルスフリー化 ③イモグサレセンチュウ侵入防止対策の確立 2 販売額の拡大 ①定期講習会による技術の底上げ	北秋田市及び大館市法人化・機械化導入等各種事業支援講習会補助 秋田県立大学ウィルスフリー化イモグサレセンチュウ侵入調査等	国：産地パワーアップ事業 県：園芸メガ団地導入支援事業、新時代を勝ち抜く農業夢プラン応援事業、地域施策推進事業

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
秋田県	3	J A あきた白神における ネギ団地の安定生産と販 売力向上への支援	H30 ～ 33	野菜	ネギの園芸メガ団地の反収向上とG A P 認証により、安定収入を確保し、永続的な産 地を形成する。 1 園芸メガ団地の掘り起こし ①大規模園芸拠点等育成推進チームによる事業の推進 2 既存園芸メガ団地の反収向上 ①定期巡回による技術指導 ②労働力の現状把握、対策の検討 3 所属となるJ A 生産部会へのG A P 推進 ①有識者等からのニーズ等現状を把握し、部会としてのスタンスを確立する	能代市及び藤里町 法人化、機械化導 入等各種事業支援 研修会補助	国：産地パワ ーアップ事業 県：園芸メガ団地 導入支援事業、新 時代を勝ち抜く農 業夢プラン応援事 業、地域施策推進 事業
秋田県	4	新時代を担う新規就農者 の育成・確保と農業法人 化への支援	H30 ～ 33	経営（担い手）	1 新規就農者研修の支援新規就農研修 ①新規就農研修希望者の掘り起こし 2 新規就農者の就農定着に向けた支援 ①研修等を用いたネットワークの形成 3 農業経営の法人化及び経営継承支援 ①研修会、専門員からの相談、指導 ②経営継承計画の作成支援		国：産地パワ ーアップ事業 県：園芸メガ団地 導入支援事業、新 時代を勝ち抜く農 業夢プラン応援事 業、地域施策推進 事業
山形県	1	輝くアグリウーマンの育 成	H28 ～ 30	就農、経営	○背景 ・H27年の基幹的農業従事者45,688名中、60歳以上が77%で高齢化が進展している。 うち女性は約1万8千人で、60歳以上が約80%を占め、40歳未満は約2%にとどまる。 ・女性の基幹的農業従事者数は減少傾向にあり、10年後には現在の65%に減少し、う ち60歳以上が87%を占め、40歳未満は、約230人に半減すると予測される。 ・女性の新規就農者は増加傾向にあるが、新規就農者に占める女性の比率は26%と低 い。 ・女性ならではの視点・発想・行動力で、従来の考え方から大きく踏み出し、マーケ ティング力や経営的センスと知識に基づき、新しい考え方や新しい連携活動による農 業の取組み、さらに生産現場で女性が一層活躍できる環境づくりを支援し、女性の農 業分野における活躍を促進する必要がある。 ○活動内容 ① アグリウーマン塾の実施 概ね40歳未満で、新たな作目の導入や新たな事業の展開等を目指す女性を対象に 研修講座を開催して、自己の経営発展を実現し、将来的に地域農業を先導する人材を 育成する。 ・ビジネスプランの策定と実行支援 ・経営管理能力（財務諸表・経営分析・経営戦略・資金繰り等）の向上 ・先進女性経営者でのインターンシップの実施 ② アグリウーマン優良事例集の作成 優良事例集を作成し、若い女性農業者の新たな事業に取り組む意欲を引き出すと ともに、東京等で開催しているI・Uターン就農相談会で事例集を配布し、新たな女 性就農者の確保を図る。 ○目標 若い女性農業者のビジネスプラン等の実現支援 60名	先進農業者、市町 村、民間企業等	（県）輝くアグリ ウーマン育成事業
福島県	1	ミッドマウント式乗用高 速、高能率水田除草装置 による水田雑草防除体系 の確立	H28 ～ 30	水稻	●現状と課題 当該地域は、昭和50年代後半から環境保全型農業・有機農業の取組が盛んな地域。 特に有機農業については、平成25年度に取組面積が54haで福島県全体の25%を占め る。しかし、近年、有機栽培は慣行栽培と比較し収量水準が低いことや作業能率が悪 く（特に除草）規模拡大が進まないことから取組面積が減少傾向にある。有機栽培に おいて、雑草防除が最も大きな課題となっている。 ●主な活動内容 紙マルチを主体にアイガモ農法、チェーン除草、歩行型除草機により雑草防除を 行っているが、効果、労力、資材費の面で課題がある。本実証において、生産現場に 高速、高能率の水田除草機械を導入し、、一般田植機との利用体系による作業の効率 化、生産コストの低減効果等の改善について実証する。 ●普及活動の展開 現地実証をもとに、地域にあった新たな技術を確立し、産地の水稻有機栽培をさら に推進する。	ふくしまから は じめよう。攻めの 農業技術革新喜多 方地方協議会、喜 多方市、JA会津よ つば、株式会社社 津菱農、福島県農 業総合センター、 福島県会津農林事 務所喜多方農業普 及所、福島県会津 農林事務所農業振 興普及部	
福島県	2	ふくしまから はじめよ う。たむら地域園芸品目 高度省力化安定生産技術 実証ほ	H28 ～ 30	園芸（野菜）	●現状と課題 近年、春先から夏期にかけて高温乾燥条件となることが多く、露地栽培品目で生育 不良や収量減少が発生し、生産者の意欲も減退している。生産量の確保と省力化を実 現する栽培技術を確立することが課題となっている。 ●主な活動内容 ピーマン、サヤインゲンほ場に、ソーラー自動灌水システムを導入し、本システム による灌水が収量、労働時間等に与える影響について検証する。 ●普及活動の展開 現地実証において、生産量が確保可能で省力的な栽培技術を確立し、優良な経営体 のモデルケースとすることで地域に技術を普及し栽培面積の維持・拡大につなげる。	ふくしまから は じめよう。攻めの 農業技術革新たむ ら地域協議会、田 村市、三春町、小 野町、福島さくら 農業協同組合たむ ら地区本部、福島 さくら農業協同組 合田村地区園芸部 会、全農福島、各 機械メーカー、福 島県農業総合セン ター、福島県県中 農林事務所田村農 業普及所	